

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

**事業所** グループホーム さっちゃん家

日付 平成19年2月28日  
**評価機関** 特定非営利活動法人  
 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

### 外部評価の結果

#### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「今日は、「とんど焼き」なんですよ。地域の皆さんもたくさん集まっているんで、ごめんなさい」とホーム長に言われて、早速前庭で準備されている会場を覗くと、法人の友の会のメンバーや家族と地域の人々が集まって準備をしている。「お早うございま〜す」と挨拶すると、デイサービスの人達が歓迎してくれた。やがて15人位の地区の幼稚園児が、一人ひとり「いのしし」と書いた習字を持って来てくれている。そして、とんど櫓に火が付き、炎が舞い上がる。さっきまで雨が降っていたのが、このお祭りの寸前に雨が上がり、風も無く良い天気になった。参加者の思いが天に通じたのだろう。正月のしめ縄に次いで、利用者や幼稚園児の書いた願いの習字が火に焼かれて天に舞い上がる。願いが叶うと良かれと思う。餅を焼き、みかんを暖め、ぜんざいを飲んで、1月のグループホームの地域や家族を巻き込んだ行事が盛大に行われた。

「グループホームの職員や利用者の皆さんが、地域に色々ときかかけてくれ、私達も元気をもらいます。私達も一緒に盛り上げていけるんです」と友の会の会長さんの弁。このグループホームが地域の中で定着し、地域や家族の皆さんと共にパートナーシップを築いてきた2年半余りの地域密着型サービス事業者への祝福であろう。

グループホーム内部で職員研修に力を入れている。教科書的な研修でなく、自主的に自分を研いたり、ホーム長から学んでもらいたい人に、自ら体験した実感で色々なケアを学び取り、上司の意見を聞きながら自分を見詰めてみるという方式である。新しく入ってきた職員には、来訪者を装って利用者になりきって、職員の声かけや寄り添いを実感して、職員の対応の難しさを体感する事から始まり、1ヶ月の研修を実体験でケアのあり方を習得したというユニークな実践的な研修をしている。このような事が、このグループホームの良さを創り出しているのだからと思った。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

普通のサービスの提供のためのマネジメントは完璧に近い状態であるので、これからは、リスクマネジメントにも力を注ぎ、契約と訴訟の時代に耐えられる体質を築き、利用者や家族に安心と安全を保障できるグループホームに育ってもらうことを希望する。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「“障害の有無に関わらず、共に地域の中で暮らそう”という思いを大切に“その人らしさ”を見つけていこう」という理念が、ケアマネジメントや家族及び地域との結びつき、すべての運営に反映されている。そして、職員すべてが理念を共有して、利用者が生活する家をつくり上げて、共に生きる地域をつくり上げている様子を見ると、地域密着型サービス事業のモデルと見て良い。 グループホームは、家族とパートナーシップ的な気持ちで色々な場面で助け合いながら運営に当たっているが、1年間に15回位の行事を組み、地域の方々と密着度が高まり、行事の計画と実行が自然に実行委員会という形で、準備や実施ができるようになった。これはグループホームの生活の場を完全に支えている基盤となっている。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 民家の改造で、“段差あり”が当たり前の家である。ぐるぐる回る人は、そこを上がったり、下がったりしながら、何十回も倒れそうになるのを、職員と一緒に回り込んで転倒を防いでいる。このような生活を、利用者も職員も普通の行動と受け止め、むしろ楽しんで生活しているところが、バリアフリーだと言っているホームに比べ、何かを感じる。 畳の部分に6人の利用者と職員が集まり、話しをしたり、歌を歌ったりして楽しんでいる。これこそ家族の団楽である。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か “自然排便をさせてあげる”という目標を立てて、一人ひとりがトイレに行き行って自分で排便するという支援を開始した。自分の箸で食べる事は、全員出来ているので、これが実現し続けること、現在紙パンツ着用しているのが、普通のパンツに戻る事になる。人間らしい生活である。お茶の種類を一人ひとりに合うものにする。水分を十分に与える事も当然である。糖分もオリゴ糖にする。このような工夫と共に、排泄パターンを把握して、その時期を夕食後に設定し、トイレ誘導し、排泄する事を意識させて便器に座ってもらう。気持ちが排泄に集中するようテレビを消したりして、20~30分便座に座ってもらい、排便すると、本人も職員も大喜極まる。これを続ける為、ホーム長も長い時間付き合ひ、皆でこの目標達成に向かっていく。6人全員を対象にしていることは素晴らしい。 何事にも、人間が自然の姿でいつまでも生活してもらいたいという考えが、全てのケアの面に向けられている。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	母体の法人も地域に密着したサービス体系をとっており、地域の友の会をつくって何事にも地域と共にという考えであるが、このホームも設立以前からホーム長が、この地域の方々で連携してグループホームの存在を地域の人々に認めてもらい、色々な支援や協力を受けてきた。そしてグループホームの企てる行事が、地域と共にあるという考えと体制で、すべて計画から実行、片付けまで一帯で行われ、実行委員会が自然に形成されている。 グループホームには、運営推進協議会の開催が義務付けられているが、このグループホームこそ、地域の中で生きていくための素地は既に出来ており、毎月のように開催される行事の実行委員会がこの要件を十分満たしているものだと思う。		